「シャクナゲスクラムとの格闘
奥只見の秘境　片貝沢」

開催日：2023 年 6 月 23 日～25 日
メンバー：平江誠（リーダー）、黒須悠輔
報告者：黒須悠輔

銀山湖に注ぐ沢の中でも、一般的にボートを使ってしか入渓できないのが、片貝沢である。そんな秘境中の秘境に、平江副会長と新規乗越ルートでチャレンジすることとなった。この新規乗越ルートを確立できれば、ボートなどという高級品に縁が無い我々でも、片貝沢に行くことが可能となる。

事前ルート確認では目的地までの道のりはそれほど長くないため、16 時には遅くとも到着できるだろうと考えていた。しかし我々を待ち受けていたのは、綺麗な花を咲かすあの植物との格闘であった。

（1日目）

09:30

大津俣発電所付近に車を止め出発。穏やかな渓相の一ノ沢を遡行し、標高点 792 で右岸の倉ドノ沢に入る。出会いからしばらく遡行すると、小滝や大雪渓が現れるがいずれも困難は無く、楽しく突破する。

倉ドノ沢出会い

小滝

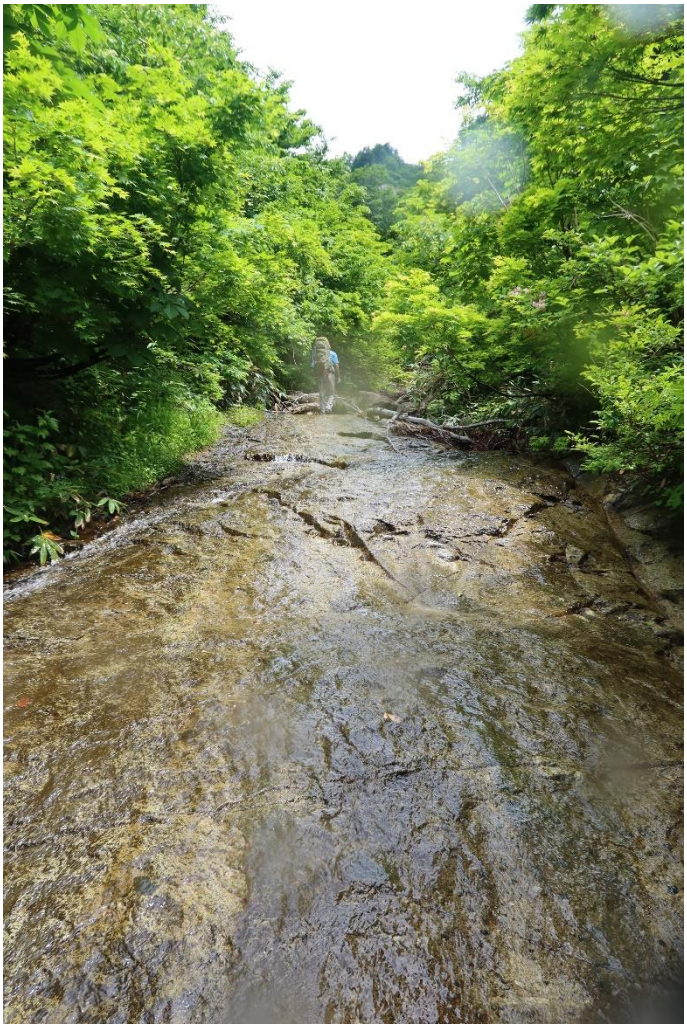
大雪渓の玄関口

雪渓上を 100m 以上歩く

ポッカリ空いた雪渓を横目に

まだまだ雪渓は続く

ツルツルな小滝

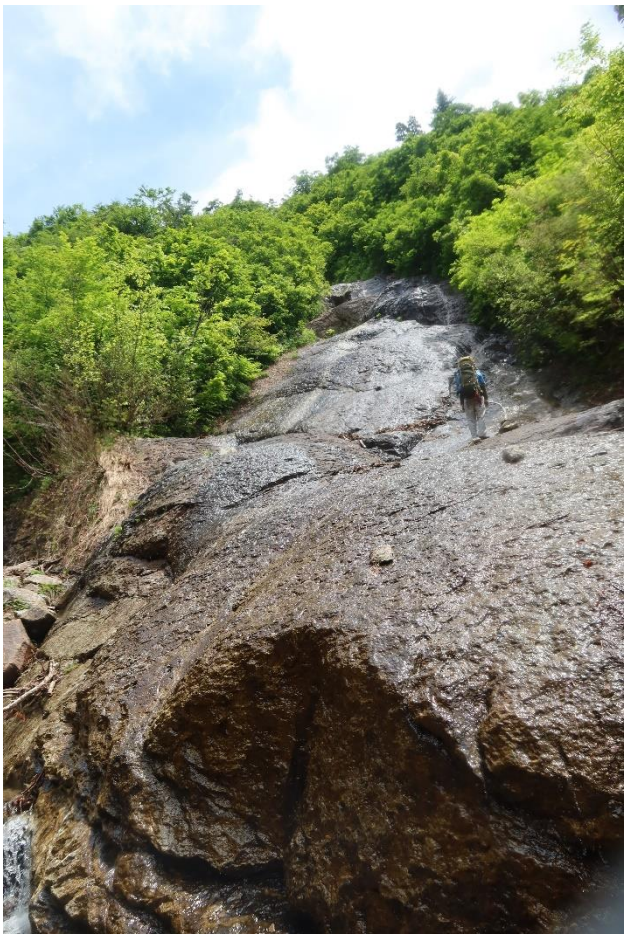


源頭に近づくと徐々にスラブの様相を呈する

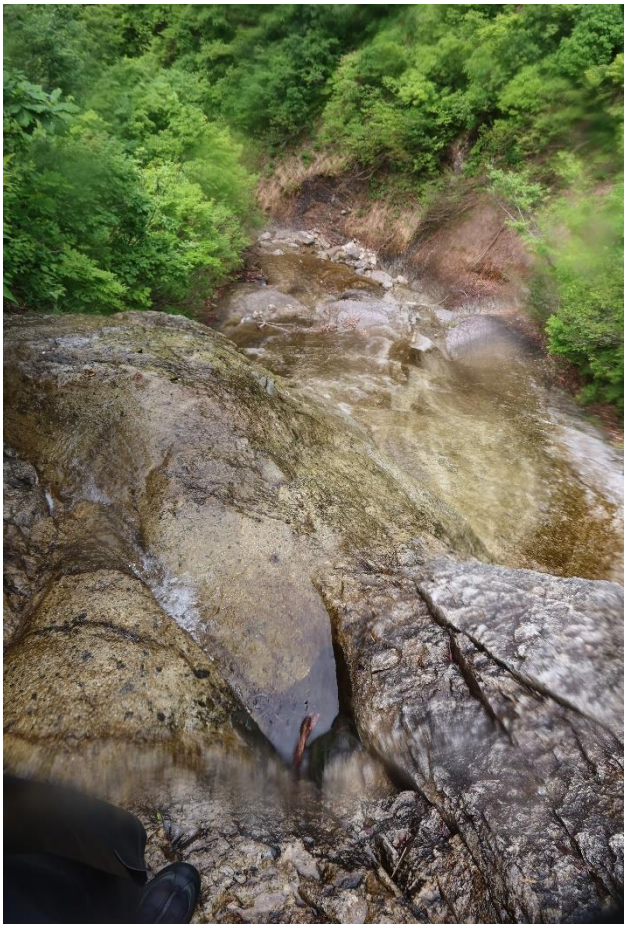
11:00

一ノ沢と片貝沢の間には、「貝ノ嵓(くら)スラブ」という大スラブ地帯がある。本ルートでは貝ノ嵓スラブ（クライミングシューズ必須）は通らないが、倉ドノ沢源頭部においても貝ノ嵓スラブの側というだけあり、過去に詰め上がった沢の中で経験が無いほど、全域がスラブで形成されている沢だった。スラブに圧倒されながらも、平左衛門山のコルに向けて歩を進める。

二俣にてスラブ突入



僅かな水がスラブを流れツルツルに



上からの眺め なかなかの高度感

高度がグンと上がる

12:00

スラブの連続で嫌な予感はしていたが、標高 950m で 7m 程の滝出現。ザックを置いて空身で頑張れば登れるかもしれないが、この先もスラブと滝が待ち受けている確率が高いため、沢を外れて斜面から尾根へ向かい登ることとなった。

平江隊長と私は、スラブの一枚岩表面に土が乗っただけのズルズルの急斜面を登っては滑り落ちを繰り返しようやく枝付きのところまで辿り着き、ほっと一安心。

7m 程の滝

ズルズルの急斜面

ズルズルの斜面の横は当然スラブ

安全な場所で小休止　平江隊長
（カメラ目線ありがとうございます）

13:00

あとは藪漕ぎをしながら尾根を歩いて乗越をして、適当に下れば片貝沢はもう目の前である。16 時には片貝沢へ到着するだろうと思っていた。しかし、しばらく尾根を歩いたところで、異変に気付く。

藪が猛烈過ぎて全然進まない・・・

足が藪に絡まって痛い・・・

えっ、1 時間歩いて 100m しか進んでいないぞ・・・

これから尾根が 1km 続くのにまずくないか・・・

そう、我々を待ち受けていた最大の敵は、スラブでも滝でもなく、尾根沿いに延々と続き前進を阻む**シャクナゲスクラム**との格闘であった。シャクナゲはツツジ科ツツジ属の植物で派手な花を咲かせるため、観葉植物として人気だが、日当たりのよい場所を好むため尾根にばかり生える。

そして株は背丈が低く、横に広がるように育つため、シャクナゲが密集するとそれぞれがラグビーのようにガッチリとスクラムを組み突破を許さない。道なき道を歩く我々源流マンにとっては体力と精神力が削られる非常にやっかいな植物である。

一面のシャクナゲ（まだ少ない方）

シャクナゲロードを進む（まだ歩きやすい方）

尾根に何本があったアカマツの巨樹。中は空洞だが幹周りは 10m 近くありそう

17:30

やっとの思いで 1km に及ぶシャクナゲスクラムを突破し、二人ともヘロヘロになりつつ片貝沢の支流に降り立つが、既に日は落ち始めている。片貝沢に辿り着く前に暗くなったら一大事のため、平江隊長を先頭に急いで駆け下る。

暗くなっちゃうよぉ！急げ～！

流心の木を支えに滝降下（このとき既に 18:50！）

19:30

真っ暗な中、さらに滝を一つ降下し、ついに片貝沢へ降り立つ。平江さんが急いでテンバを探すと、幸運にも降り口のすぐ側に手頃なテンバを発見し、どうにかビバーグを避けることができた。常に水が染み出している（流れる？）ビチョビチョなテンバであったが住めば都。（というかここ以外テンバ無し）

平江隊長、テンバ見つけて頂き感謝です！

（2日目）

08:00～10:00

のんびり起床し、朝食を済ませたのち、いよいよ釣りに出発。やはり釣り人はほとんど入っていないようで、ポイントとなるところでは必ず岩魚が釣れる。少なくとも今シーズンは我々が一番最初の釣り人だろう。（湖からボートで来たとしても片貝沢下流は滝が有るため誰でも来れるわけではない）

エサ釣りを楽しむ平江さん

まずまずの型

私も釣るが痩せ気味

12:30

釣りを少し楽しんだところで雪渓が現れ始める。平江さんが雪渓に登り先の様子を確認するが、その先も雪渓になっていた。おそらくここを超えても更に雪渓が出現してくる可能性が高い。残念ではあるが納竿とし、昼食のラーメンを食べてからテンバへ戻ることに。

片貝沢にも雪渓が…

雪渓が続きそうなため納竿

岩壁のニッコウキスゲに癒される

焚火は欠かさず

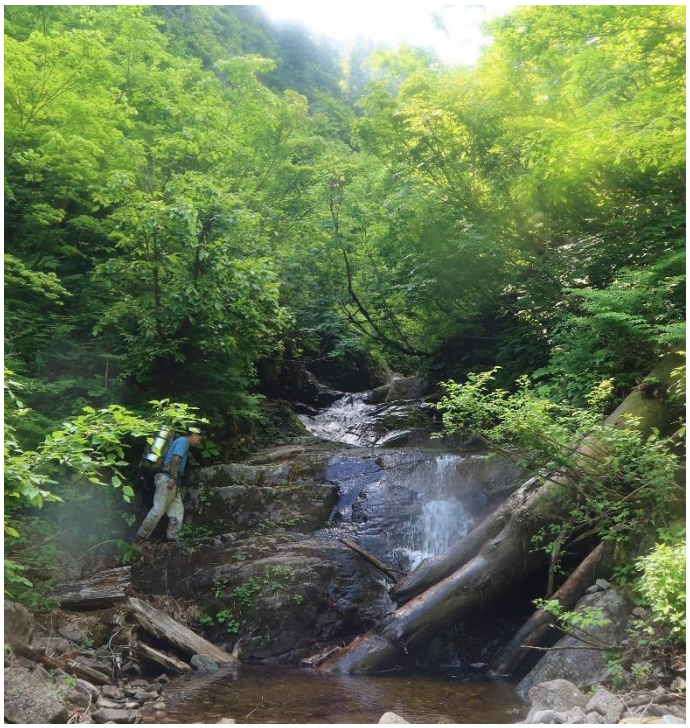
テンバで平江さんが作ってくれたチーズの揚物に舌鼓を打ちながら、翌日の帰路について打ち合わせを行う。1日目と同じシャクナゲロードに入ったら、帰るのが遅くなるため、なるべく尾根を使わないルートで帰ることに。

（3日目）

09:00

予定どおり片貝沢の支流を遡行し、詰め上がり、そのまま乗越を狙う。30 分程遡行するとまたしても雪渓が現れた。物音を立てないように雪渓の下を静かに素早く通過する。このとき右岸側から沢が低い位置で入っているのが見えたが、急いで雪渓を抜けたかったので、特に気にも留めず通過した。雪渓を抜けると、不思議なことに水がほとんど無くなり、急激に高度を上げるようになった。（100m 以上は上がっているだろう）

尾根にあがってから平江さんと一緒に GPS を確認し気づいたことだが、雪渓の中で見えた右岸側の沢が遡行するべき支流であり、我々が登ったのは枝沢であった。雪渓の出口は明らかに枝沢に繋がっており、間違えてしまったというわけだ。それによりとてつもなく急激な草付きの斜面（むしろ崖）を登ることになり、全集中力と技術をもって必死に登った。（正直、これはまずい！と昨年以来、久しぶりに思った・・・）



片貝沢の支流を遡行（ここまでは良かった）

雪渓の中で二俣になっており沢筋を間違え急斜面へ
正しくは写真奥の沢筋だが尾根まで気づかず

モウセンゴケがひっそりと

斜面で小休止

遠くに大スラブ地帯を望む

無事に尾根に登ってからは、結局シャクナゲロードに入ってしまったが、乗越後すぐ降下した沢が大正解で、滝も最後の一か所しかなく、スムーズに一ノ沢へ戻ってくることができた。車止めに着いたのは16:00 である。本釣行を通して、行きと帰りのルートを組み合わせれば、比較的容易に片貝沢へ乗越で行けることは確認できた。軽快に歩いて片道7時間程ですが、もし会員の方で行きたいという物好きな方がいましたら、喜んで案内しますので是非お声掛け下さい。

最後に、今回も平江隊長にはお世話になりました。記憶に残る、中身の濃い大満足の釣行でした。次回もよろしくお願いします。

平江隊長、次回も濃厚な釣行楽しみにしてます！